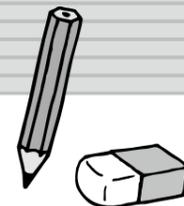


「学び」の質の向上を目指して

～平成28年度全国学力・学習状況調査結果から～



全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握するため、小学校6年生と中学校3年生を対象として、全国一斉に実施されています。今年4月19日に、国語と算数・数学の2教科の学力と、生活習慣や学習状況などに関する調査が実施されました。

四万十町では、「一人ひとりの『学び』を保障する」教育実践及び教育環境の整備を目指して取り組みを進めています。その中で検証するための1つの指標として、全国学力・学習状況調査結果も活用してきました。

その結果、小学校の国語・算数ともA問題（主として「知識」に関する問題）は、全国平均値を超えているものの、B問題（主として「活用」に関する問題）には課題が見られ、今後の分析・取り組みが必要です。中学校の国語B問題の平均正答率は、大きな伸びをみせましたが、数学に関しては、A・B問題とも課題が残る結果となりました。



四万十町教育委員会では、平成21年度から「校内研究支援事業」や「研究主任会」を実施し、各学校の研究の活性化や各学校の実態に応じた取り組みが実施されることを支援しています。また昨年度より、小学校と中学校の連携を強化する取り組みやみんなが「できる・わかる」をめざしたユニバーサルデザインの見点にもとづく授業改善の取り組みも続けています。

今回は、9月29日に提供された「平成28年度全国学力・学習状況調査」の結果概要と、今後の学力向上に向けた取り組みをお知らせいたします。

子どもたちの家庭学習の状況

（普段の1日あたりの学習時間）

小学生は1時間以上の家庭学習をする割合が6割と全国平均並みですが、県平均よりはやや下回っています。中学生は1時間以上する割合が7割近くで、全国値をやや上回っています。今後も家庭学習の習慣をつける取り組みとともに、学校との学習がよりつながり深まる取り組みを進めます。

「学び」を充実させたい取り組み

- ・家庭学習の時間を生活習慣の中で位置づけ、家庭学習に取り組む時間を増やす。
- ・授業の学習内容と家庭学習を復習や予習で効果的に関連づける。
- ・めあてから振り返りまでの授業のスタンダード化を更に図ることで、子どもたちが通しを持ってより主体的に授業に参加できるようにし、家庭学習への意欲にもつなげる。

「家庭」でできる取り組み

- ・どんな家庭学習をしているのかノートやプリントをお子さんと一緒に見る。
- ・学習している姿を見かけたら、その場で「自分からできてすごいね」といった具体的な評価の声をかける。
- ・お子さんの興味・関心を大切に育む。

学校の取り組みの状況

（放課後等を利用した補充学習）

高知県では小学校の約62%、中学校の50%が、四万十町では小学校の約83%、中学校の40%が、放課後を利用した補充学習を週に2回以上実施しています。町中学校の40%は、すべて週4回以上の実施です。

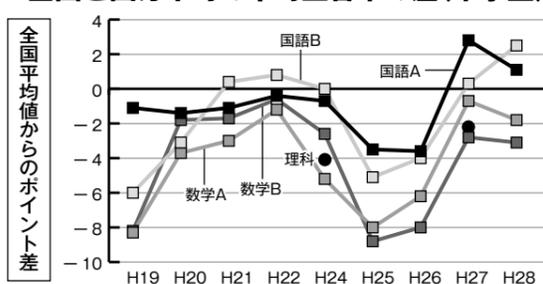
これは全国の小学校の約18%、中学校の約16%と比べると、高知県や四万十町の各学校では、放課後の補充学習の機会を多くとっているとと言えます。

「学び」を充実させたい取り組み

- ・学習内容の選び方や指導方法の工夫による、学力向上に有効な補充学習を実施する。

町内小・中学生の学力状況

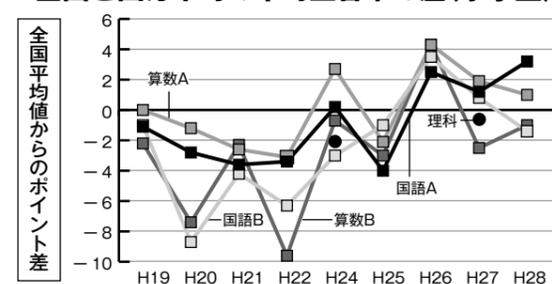
全国と四万十町の平均正答率の差(中学生)



	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
国語A	-1.1	-2.8	-3.6	-3.4	0.2	-4	2.5	1.2	3.2
国語B	-1	-8.7	-4.2	-6.3	-3	-1	3.5	0.8	-1.4
算数A	0	-1.2	-2.6	-3.1	2.7	-2.1	4.3	1.9	1
算数B	-2.2	-7.4	-2.3	-9.6	-0.7	-3	4.3	-2.5	-1
理科					-2.1			-0.6	

※全国と四万十町との平均正答率の差（全国平均正答率の位置を0としています） ※平成23年度は震災の影響で全国データなし

全国と四万十町の平均正答率の差(小学生)



	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
国語A	-1.1	-2.8	-3.6	-3.4	0.2	-4	2.5	1.2	3.2
国語B	-1	-8.7	-4.2	-6.3	-3	-1	3.5	0.8	-1.4
算数A	0	-1.2	-2.6	-3.1	2.7	-2.1	4.3	1.9	1
算数B	-2.2	-7.4	-2.3	-9.6	-0.7	-3	4.3	-2.5	-1
理科					-2.1			-0.6	

【中学校】

平成22年度以降、全国平均より離れる傾向がありましたが、近年は全国平均に近いところで上下しています。今年度は数学では、既習内容の定着の弱さ、またそれらを使って順序立てて説明する数学的思考力を問われる問題に課題が見られました。

【小学校】

実施当初の19年度から少しずつ上昇傾向にあり、近年では全国平均に近いところで上下しています。今年度は無回答率が減少し一生懸命取り組む姿が見られましたが、活用力を問われるB問題では目的に応じて考えたり書いたりする力に課題が見られました。

子どもたちの生きる力を育てるために

高いレベルの学習のめやすの一つとして、四万十町立小中学校ともに、全国学力調査で全国平均以上の平均正答率にする。

「家庭・学校・地域」が連携する

子どもたちの成長には、まわりの大人がそれぞれの立場・役割で関わりを持つことが欠かせません。

意欲や主体性の育成には、ご家庭での「早ね 早おき 朝ごはん」など、基本的な生活習慣の定着は大きな役割を持っています。

また、お子さんとの対話を大切にし、具体的に褒めてあげたり認めたりすることで、意欲や自己肯定感がぐっと伸びると言われています。ご家族の「ボイスシャワー」をたくさんかけてあげてください。

今後もお協力をよろしくお願いたします。

「お問い合わせ先」

教育委員会 学校教育課

☎22-2594